

長の検券を裏に... 取調の進行
するにつれ、其真相がハッキリ... 乱暴な目的の爲に
郵放還されたのであり、それして私共幹部一同の連署によ
り、私の如き誓約を致しまして、問題は一段落を告げたのであ
ります。(誓約書抄録)
今回の争議に關しては罷上米行以来常に留意し來りたる所
なるが將來は一層隙を考慮して飽くまで合法的手段に依
つて其経緯は一つと毎公竹槍問題の如き事を繰り返さざる
様注意すべき事を誓約す

昭和二年十月一日

斯様な次第でありますから、竹槍を何卒本振へたとか、今でも
も隠れて振へておるとか、幹部が命令して會社を襲撃させよ
うとした筈、或は其他種々の説かありますから、何れも根も葉
もないものであります。竹槍問題に關する御諒解を得たいと思
ひます。

昭和二年十月二日

野田支部理事會

會社の偽ビラより

一足先

會社は、今、南盛堂で、

野田支部 一工員 と署名した二枚の宣傳

ビラを印刷して居ます。其ビラの内容は、
今度の争議は及対だ」と書きはじめ、正宗が何うたとか、
忠臣藏の談野が何うの、或は上杉謙信と武田信玄の戦の
時に謙信が何うしたとか云ふ例を引いて、此度の争議が
幹部の不徳の爲に起きたと云つて、組合員が幹部に不信
任を囑した如く書いてあるのがあります。
其一節を抄録するならば、
「...幹部の不信を責むる者があらうかと見た時、かなし
いかな一人も居ない。何故にと云ふならば、一徹の組合
員は時の欠不巨火の奔行式で...」